

経営講座

「新：高知県で儲かる会社を創る方法」

第9回テーマ 戦術の重要性「客が来るか？と心配していた『むろと廃校水族館』の予想外の盛況理由は何か？」

今回は、戦術の重要性「客が来るか？と心配していた『むろと廃校水族館』の予想外の盛況理由は何か？」の説明をさせて頂くが、高知県の他の業種の皆様も是非ともこの成功例を参考にして貴社の業績をUPさせて欲しい。要は、ビジネスの成功は、業種に関わらず顧客の心を掴むことである。顧客の心はご自身の心と同じかも知れませんし、異なるかも知れませんし、その双方が存在するかも知れません。このことに留意してください。

1) 盛況要因は、色んな戦術（アイデア）の成功によるものである。

「顧客が来るだろうか？」と心配されていた「むろと廃校水族館」が、予想外のヒット（盛況）である。オープン1年で来館者が20万人。交通が大変不便なこの「むろと廃校水族館」は何故ヒットしたのか？50種類1000匹以上の魚が飼育展示されているが、そのほとんどは地元漁師の定置網にかかったものや、職員が自ら釣り上げたものばかりだ。目玉魚類はないのだ。目玉魚類がないのにヒット（盛況）した理由は、数多い細かい色んな戦術（アイデア）の成功が次から次へと生まれているからである。その結果「廃校へのノスタルジー」や「他の水族館では看過されがちな種類の魚介類を時間をかけて見ることができる。」ことが特徴である。若月元樹館長は「アイデア（戦術）を出し続けて、ブームに終わらせないようにしたい」と話す。

例えば、次のような小さな数多い色んな戦術の集合体がヒットの要因である。

①「むろと廃校水族館」の名称（名称が面白い。「海の水族館」等ではダメ＝どこでもある。）

②跳び箱をくりぬいて水槽を作って魚を泳がす。

③25m プールをそのまま飼育用の水槽として使っている。

サメとサバやカワハギ等の他の魚とさらにはウミガメまでと一緒に泳いでいる。勝手には入れなかった場所の代表格ともいえるプール。そのプールに入れるというだけで特別感があるのだ。

④廊下も教室も、校内の至る所が展示空間

手洗い場は横に長く伸びるタッチプールに。ナマコやヒトデなどもいればカニやエビといった甲殻類まで様々だ。よく見なければ石のような姿に擬態している生き物もいるので、しっかり観察してみよう。

また図書室の本棚の上には、何気なしにクジラの骨格を置いてある。

⑤珍しい戦術の出現としては、さらには、「世界で最も美しいサメ」とも呼ばれるヨシキリザメが定置網にかかり、むろと廃校水族館が引き取って展示を始めている。ヨシキリザメは飼育には広いスペースが必要なうえ、ほかの種類のサメと比べてストレスに弱く飼育が非常に難しいということだがいまのところ与えたエサもよく食べておなじプー

ルにいるウミガメなどと元気に泳いでいるということ。(現在は海に放流していないとのこと。)

⑥ 1回千円のはズレなしのくじ＝特等はビッグサイズの「ぶりのぬいぐるみ (人気)」

2) これらの新しい戦術の出現が切ればそのときは衰退が待っている。頑張り「むろと廃校水族館」

< 龍馬社長大学 学長 奴田原 惇郎 (ぬたはら・あつお) >